

縣市協調未来創造検討会議 第2回新ホール部会議事概要

<開催要領>

- 1 日 時 令和2年11月24日(火) 13:30~15:30
- 2 場 所 徳島グランヴィリオホテル
- 3 出席委員 松重部会長、吉本副部会長
浅香委員、生駒委員、坂口委員、佐藤委員(代理:清水副理事長)
田村委員、花柳委員、檜委員、松永委員、三木委員、吉森委員

<会議次第>

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 部会長挨拶
 - (2) 県民アンケート「新ホール関係」の回答状況(途中経過)について
 - (3) 縣市協調新ホール整備方針(仮称)案について
 - ・施設運営の検討
 - ・施設規模、機能の検討
 - (4) その他
- 3 閉会

<配付資料>

資料 次第

資料 縣市協調未来創造検討会議「新ホール部会」委員出欠一覧

資料 配席図

資料1 県民アンケート「新ホール関係」の回答状況(途中経過)について

資料2 縣市協調新ホール整備方針(仮称)案

資料3 他県ホール施設の運営状況

資料4 徳島県内の主なホール施設の配置状況図

参考資料 縣市協調未来創造検討会議「第1回新ホール部会」の概要

参考資料 位置図

参考資料 徳島県内の主なホール施設一覧

参考資料 各都道府県における最大規模の公立ホール施設一覧

参考資料 徳島市新ホール整備基本計画

< 議事概要 >

(事務局)

議事(2)、(3)について、資料1及び資料2(I~IV)、資料3、資料4を説明

(部会長)

先ほどの基本方針、管理運営の考え方とか、どなたからの意見でも結構ですが、いかがでしょうか。

(A委員)

アンケートの結果で2000席というのが半数以上になっていると。そういうことを踏まえてかと思いますが、基本目標は「鑑賞する機会を提供する」が1番になっている。やはり2番に書いてある「県民とともに徳島の特徴的な文化芸術を創造する」が、どちらかという1番で、2番目に「鑑賞する機会」の方がいいと思います。それが県民の文化活動を盛り上げていくことになると思います。まず「鑑賞」と来たら、頭でイメージするのは、県内の団体より、2000席、鑑賞といった県外からのイベント、それがメインになるんじゃないかと感じてしまう。

(部会長)

場の提供という感じですけど、徳島の特徴ということで、ここで書かれている2番目を順序としては最初に出してはどうかということですね。(あわ文化の)4つのモチーフもありますけど、第九については鳴門のホールがあって、歴史的な背景もありますので。ただ、鳴門のほうも今年の3月までと伺っています。その後耐震工事に入ると。そうすると新ホールも第九ができるし、他のクラシックもできると。それから、阿波藍についても、阿波藍のファッションショーとか、阿波藍に関する舞台芸術を新しく作っていくと、今までの単なる染色産業だけではなくて、それを転機にした文化も出てくるかと。あと、人形浄瑠璃は規模的にいうとあまり大きなところじゃなくて、むしろ中小ホールの方で、そういったものを配慮した形で作っていくというのがあります。もう一つは、阿波おどりについて、先日、コロナ禍の中でどのようにするかモデル実験されています。阿波おどりは徳島が発する世界に誇る伝統文化だと思います。屋外で踊る雰囲気もあります。練習の場を含めて、阿波おどりの舞台に配慮されていれば世界から、日本各地から、ぜひ徳島のこのホールで踊ってみたいということにもなります。そういう特徴を出せば、新ホールだけではなく、それに付随した徳島の文化、自然を体験していただく、そう考えれば新ホールの役割は非常に大きい。いかに組み込めるか工夫の仕方がかと思いません。

(副部会長)

B委員に意見を伺いたいですけど、鑑賞は重要なんですけど、マーケットといいますか、徳島に公演を呼んできて、実際に素晴らしいものを観てもらうのは簡単じゃないと思うんですよね。専門家が必要という方もおられますけど、せひ運営の面で経験を踏まえてのご意見、感想を。

(B委員)

今ありました阿波おどり、人形浄瑠璃などを行っていくには、若い人たちの人材を育成していくというような、プレイヤーとしての人材、それを育てていく人材、それはちゃんとホールにそういった体制が整っているということは大事かと思えます。

(部会長)

人材の育成と謳っていますし、そういった場があれば皆さん集まって。そういう仕組みも必要かもしれません。せっかくのホールですから、刺激があるような仕組みといたしますか、そういったものが必要。

(C委員)

他県ホールの運営状況がありましたが、あわぎんホール、市文化センター、鳴門市文化会館、いろいろホールがある中、そちらのホールが自主事業とか貸館とかどういう割合で、稼働率とか、どんな状況で活用されてきたのか、鑑賞してきたのか。今振り返って、他県と比べてみて、徳島にはどういう状況がふさわしいのか。2000席とか、いろいろ考えるわけですけど、大きなホールであればいいのか、それではどうなのか。参考に知りたいということがあります。

人材育成では、パフォーマー、舞台面に立つ方だけではなく、裏のスタッフさんとか、支えていく技術家の方、事務方、それを含めた舞台監督、芸術監督とかいらっしやると思うんです。それと同時に、鑑賞や活動による人材育成だけではなくて、ホールに関わっているだけで人間として育成されているですよ、とか少しあると、もう少し柔らかくなるかなと。

現場のスタッフも、ハード面とか、どういう機材を入れるか、いろんなことに関わってくるとし、それを入れるとどんな人件費がかかるとか、機材費がかかるとか、これを入れると後で楽になるとか、最初は高くなっても楽になるとか、使い回しもあると思います。

(部会長)

一つは県内施設の使用状況、もしデータがあればということです。人材育成についても、プレイヤーもありますけど、それを周りで支える人、人間力とか、そういうところもありますよ、ということですね。データについてはもし分かりましたら。

(事務局)

次の項目で説明予定だった資料4ですが、メインは規模感のイメージ図です。あわぎんホールは大ホールで80%、アスティとくしまの65%、すだちくん森のシアターは季節によりばらつきもありますので書いていませんが、イベントホールのパーセンテージとか、鳴門市文化会館は一時休館になりますが、様々なコスト面での検討はしっかり行い、経営、効率的な運営を目指していくと考えております。

(部会長)

人間育成なんて、D委員いかがでしょうか。

(D委員)

舞台が好きでよく観に行くんです。なぜ観に行くかというと、新しいしいものとか斬新なものが観たいので行くわけです。徳島に2000席のホールを造っていただいて、舞台機構をしっかり造って、負けないようなものができればいいですが、果たしてできるか。スペースの問題があるし、時間的な問題がありますし、費用の問題ですかね。それを考えた時に、徳島県に(あわ文化の)4大モチーフがありますけど、大きなホールでできることは、第九ぐらいですね。第九を鳴門文化会館でしていた時にどれぐらい人が集まって、どういう風に入るとかよく分からないですが、第九を年に1回するだけで2000席のホールが賄えるかどうか。

1時間半で兵庫のホールに行けるんです。徳島に来るためには、どういう設備のホールがあれば負けないのか、分からないので、答えが出ないんですけど、2000席が要るのだろうか

と考えています。2000席あって、どんどん回転して行って、徳島が活性化するのであれば、協力していきたいですけど、自信がないというか。

それと、舞台機構ですが、未来に向けた新しいものをしていくなかで、前回言いましたが、主舞台だけでは絶対に無理で、奥に舞台スペースがないと映像を投影できません。前から映像を投影しても人が邪魔になって無理です。LEDを活用していくのであれば、奥のスペースを持つこと。演出の効果にしても、セリもありますし、このごろはスライディングといって回り舞台をどんどん使ってます。そういうことが可能か分かりませんが、そういう設備があるから大きな団体が来る。有名なところが来るということがあると思います。そういう舞台でない限り、なかなか難しいのではないかと思います。

(部会長)

逆をいうと、アンケートにもあるように県外に行かざるを得ない。(新ホールが)できた時に人が来るようなものになるか、確かに皆さん心配されている。工夫として、最近だといわゆるプロジェクションも、後ろから前からありますが、最近では有機ELはそのものがディスプレイにもなりますし、新しいものだとの後ろの背景がいらぬとか。これは後の議論になると思いますが、設備が採用できるのか検討もいる。VRとかありますし、技術の進歩で、今までのシアターではできていないものを用意して、いろいろな人が来ることがあるんじゃないか。

(副部会長)

(整備方針案では)ソフト面のところで、事業を行うかどうか書かれていないのではないかと。自主事業を行うかどうか。例えば、前の市の計画には、創造事業、交流事業、鑑賞事業を行いますと明記している。今日の資料だと、管理運営の考え方のみであって、県が主催事業を行うか書かれていません。先ほどの質問と関係してくると思うんですけど、他県のホールは自主事業を行っています。そのための予算、専門家も配置してやっております。今日の資料ですと、7ページの2番。ここに書かれているんですけど、阿波おどりとか人形浄瑠璃とか、徳島を代表する文化資源で、それもとて重要でやってきたと思うんですけど、せっかくホールを作るのであれば、それだけではなく、徳島が発信する新しい作品づくりですね。創造型事業に取り組むとか、今日の事例でいうと、びわこホールがオペラを作ってるんですね。そういうのを作ると他県から来るんです。そうではなくて、メジャーな舞台をブッキングしてツアーでやると、県民としては観たいと思いますし、ぜひやってもらいたいと思いますけど、オリジナルのものがなくて他県から寄るのは難しいです。自主事業を行うかどうか、現時点で書き込めるか難しいと思うんですけど、先生方に意見を伺いたい。この中で読み取れないのは、人材育成とか書かれていますが、いわゆるアウトリーチ系の事業ですね。アーティストのリサイクルだけではなく、学校を訪問してワークショップを行う、高齢者施設で演奏をしてもらう、教育、福祉など他領域と文化事業の連携をしていくのか記述がありません。それと、県全域への波及効果。県内とあると思いますが、県内市町村と連携して県全域のホール事業、ホール文化を底上げする視点で広域行政として必要。

(部会長)

重要なことを指摘いただきました。自主事業の考え方がまだまだ盛り込めてないのではないかと。魅力あるものを誘致するだけではなくて、自分たちでやっていく。これは人、時間、ノウハウが必要だと思います。先ほどもあったように芸術監督、著名な人、了解してもらえないか分からないですけど、特に県民性も含めて、徳島のホールのためにという人がいて、著名な人であればそのようなことも可能と思う。こういうことを検討、アウトリーチとして人材育成も含めて、やっていくという指摘かと思います。こういったことは全国ではあると思うんですね。有

名な作曲家を育てる場所。そういうことを考慮すべきということでした。

(B委員)

文化センターを預かってやっておりまして、これからの公共ホールの役割として、何が期待されているかということをごきちんとしていくことが一つだと思います。役割を明確化してやっていかないとけない。

ホールそのものも、公民館になって、市民会館になって、芸術劇場になって、それぞれのイメージが確立されてきたと思いますが、社会的な役割、ミッション、社会的役割を自ら設定して、その効果を測定することが求められている。外部資金の問題も出てきて、いろいろな形、企業もありますし、国からのもありますけど、それをするためには、事業に対して指標があるわけですけど、効果をきちんとして測定して報告することが求められていますから、ミッションを自ら設定して、効果を測定することが大事です。

ジャンルも多くなってきました。新しく映像配信等が加わって、新しいジャンルをどう捉えていくか大事ですし、自主企画、自主制作とネットワークですね。どうやっていくのか、公共ホールの中のネットワーク公演だとか、小規模ホールからの発信とかありますので、そういうところをどう協議していくのか、それから人材育成というのは、公共ホールのスタッフもそうですけど、プロ化していかなくてはならないわけです。研修プログラムの充実、アートマネジメントを拡大していかなくてはならないですし、そういった専門家、芸術監督、プロデューサーが配置されなければ、なかなか進んでいかないということです。大事なことは、公共ホールの役割は何なのか、きちんとして進んでいかなくてはならないということです。

(部会長)

公共ホールのミッションとは何なのか。そして、評価といいますか。それに沿って効果の測定。我々はPDCAと言いますが、企画して、動いて、それを踏まえて次のアクションに持って行く、そういうことが必要であろうと。

自主的なネットワーク、周囲との連携とか、発信をどうするか。一つは新しいジャンルをどうしていくか。伝統文化というのは、今まであったものを継承してやっていくわけですけど、新しい要素や人材がないと継続していかない。そういったものに若い人が関心を持つことにならないと。高校生、中学生がここに来て見る機会を多くする。若い人たちが観たい形で提供することが大事。アートマネジメント、プロデューサーも育成をどうしていくか。県内に関係機関、大学があれば連携もあるかと思いますが、現状は厳しいところ。ただし、皆さんの経験がありますし、何かいい例があればそこを採用する。

(E委員)

この話が進むにはホールを造ることが前提。できた後の話は、できた後にしないと。できる前にいろんな話をしても進まない。大ホールが要ることは分かっている。アンケートや我々の状況から言っても、大ホールだと1800席か2000席の話。クラシック音楽のオーケストラフルメンバーだと、1800席のホールが理想的なんです。最近のだいたいのホールは1800席なんですね。2000人は要らないと言われてます。

ホールを造ったら地元の人が活動する、オーケストラとか何でもいいですけど有名なものを招聘して演奏してもらって、両方あるんです。徳島だけで埋めていくのは非常に難しいので、そういうのを活かすためには、それ以外は我慢しなければ。

1800席か2000席になってもいい。2000席だといろいろな大会がある。全国大会をすると3000人来るんです。そうすると、ホールの経営が成り立つので、芸術活動をするためにはそういうところを受け入れないと、ホール自体が保たないのではないかと。1800席

でもいいですけど、2000席の方がより実施しやすい。造って置いてたのでは誰も寄ってこない。旅行会社と連携して、大会を勧誘してもらおうとか。とにかく開けておかないと得にならないわけですから。

小ホールはどうするか。郷土文化会館が約800席なんで、郷土文化会館がなくなった場合に、わざわざ800席を作る考えもありますね。新しいホールの1階だけ使用料を半額とか、かなり大胆な値段設定して使う。そうすると、郷土文化会館と同じように使えるんじゃないか。そういうところも配慮してホールの大きさを決めたらいい。そういう方法を考えて、最終的にどの大きさになるのか。

それから、レストラン。徳島ではホールの中にレストランに入れても絶対に流行らない。同じ敷地にレストランを別棟で作って、常時お客さんが来る。そういうのを考えないと、難しい。別棟にして、一般的に使えるようなレストランならいい。ホールの中には、ちょっとした飲み物のコーナーを作ったらいい。

音響は、音響専門の会社があります。ホールを作る会社は音響の設備関係と提携しているわけですから、非常に細部を研究されている。クラシックなら残響をどうしたらいいとか、我々が考えたってできないので。年間の維持管理費も考えてホールを作るのが大事。うまく運営できなければ、ただの貸しホール。これではホールが保たないと思います。

リハーサル室は窓を作って、というようなことがあります。ですが、リハーサルは人に見られたくない気持ちもある。ガラス張りに作ってもいいですけど、見られたくない場合はカーテンをすとか。本番のステージ前は人に見せたくないというのが本当の心理。

運営はなかなか難しい。役所仕事ではだめ。営業的なことも考えて専念してくれる人が要る。

(事務局)

議事(3)について、資料2(V~VI)を説明

(F委員)

本業で設計をやっているんですけど、設計をする場合どうしても条件が必要です。先ほど、ご意見もありましたけれども、器を作ってから考えて、というのでは使えるものにならないので、どんなものを作っていかをしっかりと固めてですね。そういうことができるか、どう施設整備をするかという芯がないと、いいものはできないんです。

あと、予算の問題があります。せっかくいいものを整備しようとしても、お金がかかり過ぎるという話の中で、だんだん事業費が縮小されて、中途半端な施設整備になってしまうことが多々ありますので。運用のところでは、貸館、貸ホールだけでやっていく印象があったんですが、管理運営の中での人材育成とか、地域の賑わい創出とかいうところで、やはり単なる貸館施設ではない、貸ホールではないですよっていうようなところ。具体的にどういうことをやっていくか、しっかり見つめていただくと、いい設計ができて、いい建物が建つのではないかと思います。

(A委員)

先ほどから、いろいろ話が混ざって大変なんですけど、最初の全体会議だったか、このホールについては徳島市の方で長いこと検討してきた計画等を土台にするという話だったような気がするんです。それで、前回と今日で実質的に終わりですよ、ホールについての具体的な会議は。実際2回ぐらいでできる話ではないので、基本的な考え方とか、いろいろと前回の資料にもありましたけど、徳島市の整備計画、基本計画とかいうのはずっと詳しく載っております。それから、文化センターの稼働率とか、どんな催し物をしていたかとか、全部資料として出ております。だから、あまりその辺のことを言っていたらなかなか、それこそあと5、6回開催

しないと決まるような話ではないと思うので、県の資料も徳島市の資料をもとに、あまり詳しく書いてないけど、それに沿った考え方で書いてあるように思うんです。その辺の感覚がバラバラなので、話が上手くまとまらない感じがするんです。市の今までの基本計画等をベースに考えていくというのはないんですかね。どうですか。

(事務局)

ご指摘の点で、最初の全体会議の中でもご説明させていただいたように、今までの長い間の検討がありますので、市の計画を基にしていくと。1つ大きく違う点は、県も協調してやっていくというところで、県都を代表する、県全体を代表するような施設にという点が今までと大きく違うところはあるのかと思います。そこは十分検討した上で、特に県民の意見、委員の意見を出来るだけ反映させる形、それが視点として県全体への意見とか、県の文化振興全般という視点を加えた結果として、この方針をお示ししております。まだ計画に際して、具体的なものは当然詰めていく部分もありますが、まずは大きな方向性を皆さんと共に作り、第一歩かなというふうに考えております。

(A委員)

そういったことが、新聞の記事にもありましたけど、どういうホールにするかというところからスタートしたら、それもそれで、オーケストラをやる者にとっては音楽芸術ホールというのが1番いいと。1500席から1800席ぐらいが最高だという感じがあるんですけど、いろいろな要素がありますので、そういうことに拘ることもできない。芸術監督を先に決めてから、こういうホールにしましょう、という方向性も本当は1つの大きな考え方だと思うし、その辺を最初からもう1回練り直すとなったら大変な作業になるので、先ほど委員から意見があったように、やはり今まで検討してきたことを土台にしながら、県として、こうした方がよいというところの議論をするべきで、あちらこちらで話をして、なかなか進んでいないような気がします。よろしくお願いします。

(G委員)

今まで話を聞きまして、また徳島県の説明によります新しいホールの基本方針案を見たら、鑑賞の場であり、創造の場であり、交流の場であるということ資料の中から汲み取ることが出来まして、ホール施設については複合的な文化施設を目指しているという、1つの目標みたいなものは見えてきたんです。盛りだくさんの複合施設となると、キャパ的にあの敷地面積で足りるのか、というイメージが湧いてきます。その辺をお尋ねしますが、敷地面積から想像するには施設規模がかなり大きくなって、厳しいじゃないかと思いますがどうでしょうか。

(事務局)

ただ今、敷地面積が施設に対して狭いのではないかと、というご質問かと思えます。まず、全体方針として1番大きい大ホールのこと、あと小ホールの関係、その上にいろいろ活動するための施設としてご意見いただきました。これらをもとに、先ほど最後の方に申しました概算的な面積を想定をしまして、大体のところ、どういった配置になっているのか検討に入る段階かと思っております。先ほど、大ホールの位置と配置の説明をさせていただきましたのも、そういうところの検討にあたって、バリエーションを持って検討ができるということを見越しまして、このような範囲でのまとまりにさせていただき、ご意見をいただければと思えます。

(E委員)

鷲の門のところは日影関係の条例があり、4階までしか建てられないと。その隣の警察署は

8階、9階まで建っていますが、あそこは日影条例の対象ではないんですか。人が住んでいるところではなくて、住んでないところが対象になる日影条例があるのはおかしいので、文化センターの跡地から青少年センターの土地が狭ければ上に積み上げた方がいいんですね。だから市の日影条例は早く取っ払ってもらった方が、あそこ人が住んでないですからね。鷺の門は影になった方が良くないかと思いませんか。で、そのすぐ前の警察はあれだけの高いものが建って、私不思議でならないです。なぜ市が人が住んでないのを分かって、終戦後にしたのかも分からない、人が住むようになってしまったのかも分からないですけども、もうそんなことあり得ないのだから、あれは取っ払って貰った方がずっと建築の時は簡単にいけると思うんですね。その点伺いたいと思います。

(事務局)

鷺の門広場に関する日影規制の関係は、仰るとおり、今現在、規制はあるということでございます。ご意見をいただきましたので、今後、検討をというふうに考えております。

(H委員)

外との繋がりも大事ではないかと思ひまして、私の周りで、ホールがなぜ要するのか分からないとか、あまり文化芸術に関係なかった方は、ホールがなくてもいいじゃないかという意見の人も少なくないんです。こういう人達にも、ホールができて良かった、あんな素敵なホールなら行ってみたい、と思わせるものを採り入れて欲しいと思います。

中身も大事なんですけど、県全体の象徴、という話もありまして、ランドマークであれば、必ずしもホールの運営だけではなく、ホールを使う以外の何か、そういうものを持ってきてもいいのではと思いました。高齢化や人口減少の中で駐車スペースが大事と、もちろんそうなんですけど、車に載らない世代も増えてくるのではないかと思います。そうすると、自転車や駅からのアクセス。この前は車椅子の話をしたんですが、車に乗れなくなってもホールに行くことで元気が出る、という感じでやるには、アクセスや、ホールまでの景観など、ホール単体ではなく街全体の中での考えをもう少し持ってもいいのではないかと思います。

ケンチョピアというのがありまして、県外の方から、県庁前にあれだけヨットが置けるのはすごい、と話をされることあるんです。全国のヨット好きの仲間はみんな知っている、という話を聞くぐらいで。街の中に溶け込む景観というか、この計画の中にも書いてあると思うんですけど、そういったところ、忘れずにいただけたらと思います。

稼働率を少しでも上げるためのホール利用もそうなんですけど、ホールと関係なく生きてきた人達の目をホールに向けさせる何か、をしていただいたら。防災避難所として使うとも書いてありますが、避難場所としての意識でもいいんです。いろいろな人が利用するという事で、いつもここにあるという意識、必要なものであるという意識を持ってもらえるように考えていただきたいと思いました。

(部会長)

建築的なもの、防災も含めて、昼間でもちょっと寄ってみたいとか、若い人が来るような利用であるとか、展示をやるとか、先ほどの阿波おどりにしろ、そういったものが観れるとかですね。アニメもありますので、そういうのをちょっと置いておくと若い人も行ってみよう。皆さんが入れるような配慮もされたらどうですか、というご意見。

(I委員)

これを聞かせていただいて、本当に最新の技術を導入した近代ホールが1日も早く完成して、その舞台上で踊ってみたいと、本当に心がワクワクしておりますが、途中経過のアンケートとは

申せ、2000席ではちょっと私たちは駄目で。また500席の小ホールでは、ちょっと対応することは不可能なんじゃないかなと、従来のあわぎんホールを使うかなと、今考えているところです。

(J委員)

整備方針案の6ページにですね、施設の使命ということで、素晴らしいことを書いておられます。その中で委員から、例えば人材派遣とか、アウトリーチとか、他館との連携が出来るかどうかという意見があったと思うんですけど、館そのものが担うのか、それとも私どもが若干ではありますけどやらせていただいている文化振興財団の方で。だから、館の機能なのか、財団の機能なのか、書き分けみたいなのが要ると思いますから、その辺は県の方で整理していただけたら非常にありがたいと思います。それから館を運営する立場から申し上げたいと思いますけど、まさに人材育成というのは耳が痛いところで、私共も常に努力しないといけないと思っておりますけど、資料を拝見させていただきますと、やはり人材面と経費面というのはある程度、相関関係があるのかと思います。ですから、県の施策として、どれだけ新しい館、あるいは県の文化振興のレベルを持って行くか、落とすどころを見つけながら考えないといけないのかと思います。

(副部長)

この会議の目的としても、一刻も早くホールを造ると知事が仰って、スピード感があるなと思います。会議は次が最後だと思いますので、整備方針としては、今日いただいた意見を踏まえて、上手くまとめていただきたいと思います。その上で、それで全て決まるわけではないと思いますので、そこからさらに詳細な検討が必要になると思うんです。規模に関しては、2000席のホールが入りますよ、という指針がなされたわけですけど、あれは南北方向に舞台と客席が並んでいて、南に舞台があったと思うんですね。あの配置だと南側の敷地が有効に使えないんじゃないかと思います。ですから、ハード面でも本当に2000席を入れて、敷地全体を有効に使うためにはどういうレイアウト、どういう設計がいいのか、次回までには出来ないと思いますので、それを踏まえて検討していただきたいというのが1つ。もう1つ、今日いただいた他府県の事例をみると、敷地面積では香川が1番狭いと思うんですけど、それでも11,240㎡あるんです。今回約8,000㎡ですよ。だから、その敷地規模に対して、本当に適切なのかどうか規模感としてまずあると思うんです。それと運営面の方は、ある程度規模感を、今落とすどころの話もありましたけども、しっかりやった方がいいと思うんです。香川の県民ホールは、大ホールの稼働率約70%、指定管理料が2億3千4百万円、正職員13名です。よく比較される兵庫の例を見ますと、稼働率90%ですけど、主催事業が80%あるんですね。それで職員55名、県費で約20億投入しています。その施設と比べて同じものが出来るとは、私はちょっと思えないんです。現実的にどこまで出来るのかという落とすどころを踏まえた上で、施設の規模も事業の規模も方針としてまず出した上で、それを具体化するときにさらに突っ込んで検討していただきたいと思います。

(部長)

具体化に落とすというか、そういう面では今まで基本的な方針のご意見をいただいて、それも含めながら、考えないといけないと思いますので、事務局の方で他県の事例も含めて、是非検討していただければと思います。

やはり我々としては期待感もあるし、どういうのをやる、そういうイメージも市民の方に必要だと思います。やはり徳島の特徴という形で、どういうのが出来るか、それぞれの団体の方もおられますので、そういうところは検討する。

それから今、情報発信というか、チケットも海外で売れるようになっている。地域だけではなく世界にも発信できる、そういう新しい時代でもありますので、時代に応じて新しい発想で是非そういうものになっていけばと思います。次回全体会議があると思いますけど、そのときも、また皆さんにも発言していただければと思います。また事務局に伝えていただいて、それも踏まえて事務局でまとめていただければと思います。